



新型コロナウイルスの感染拡大 や ワクチン接種についてお知らせします。

北本市でも感染者が増えています！

新型コロナウイルスの感染者数が首都圏を中心に急増していますが、北本市の新規感染者数も、7月27日以降は1日平均5.9人に急増しています。

◆ 北本市における新規感染者数(1日当たりの平均)

令和3年4月1日～7月26日 88人(0.8人/日)

↓

令和3年7月27日～8月7日 65人(5.9人/日)

埼玉県における新型コロナウイルスの感染者数と過去の波との比較は次のとおりです。

項目	第5波 8月7日	第4波 5月13日	第3波 1月19日
患者数	13,437	2,849	6,588
入院者数	1,046	737	886
うち重症	75	48	82
宿泊療養	603	360	276
自宅療養	8,543	1,089	5,004
新規感染者	1,449	289	422

※第3波、第4波は患者数がピークの日の数値

第5波の特徴は、「デルタ株」と「若年層」です。デルタ株は感染力が極めて強く、過去に例のないスピードで感染拡大が進んでいます。また、高齢者からワクチン接種を進めてきたこともあり、ワクチン未接種の若年層の感染者が増えています。感染予防の徹底をお願いします。

◆ 年齢別新規感染者数(8月7日埼玉県発表)

年齢	0～19歳	20～39歳	40～59歳	60歳以上
人数	148人	408人	256人	59人

新型コロナワクチンは、「発症」予防効果が高く、重症化予防の効果も期待されますが、「感染」予防効果は未だ研究中です。ワクチンを2回接種後の感染例もありますので、**ワクチン接種後も、引き続き感染予防に努めてください。**

埼玉県において、県内4か所に**大規模接種センター**を設置し、新型コロナワクチンの集団接種を行います。北部(籠原)と南部(北浦和)の会場は、8月12日(木)午後1時からインターネットで予約を受け付けます。対象者は、18歳以上のエッセンシャルワーカーです。詳しくは、埼玉県のホームページを確認してください。



北本市の新型コロナワクチン 接種状況

北本市では、市内34の医療機関で新型コロナワクチン接種を実施しています。年齢の高い方や基礎疾患のある方から順次接種を進めています。

ワクチン接種に必要なクーポン券は、すでに対象者に発送されています。8月9日現在で、50歳以上の方が予約可能となっています。

次の年齢区分は35～49歳の方で、当初の予定では9月以降予約開始予定となっていますが、50歳以上の方の予約状況や、国からのワクチンの分配状況によって、前倒しされる可能性もあります。予約受付の開始は、対象者にハガキで通知されます。

北本市へのワクチン分配状況

北本市には第12クール(8/16及び23の週に配布)までに計57箱が分配されています。近隣各市の分配状況は下表のとおりで、各市へはおおむね人口に比例して分配されており、北本市が少ないという事実はありません。

◆ 第12クールまでの分配箱数

市名	箱数累計	7/1現在 人口(人)	人口1万人 当たり
北本市	57箱	64,945	8.78箱
桶川市	65箱	74,589	8.71箱
鴻巣市	101箱	116,598	8.66箱
上尾市	184箱	227,742	8.08箱
県計	5,820箱	7,346,571	7.92箱

北本市では、年齢区分ごとに希望者が必ず接種できるよう、また1回目の接種をした人が、規定の期間内に2回目の接種ができるよう、対象者数やワクチン分配状況を丁寧に確認しながら、予約受付の対象を順次拡大しています。ご理解のほど、よろしくお願いします。

なお、次の**第13クール(8/30・9/6の週に配布)**は、県全体で857箱(12クールは532箱)が分配されるとのことです。ワクチン接種の加速化が期待されます。

重症以外は自宅療養へ 国が方針転換

8月3日に政府が、重症者や重症化リスクの高い者のみを入院治療対象とし、それ以外は自宅療養又は宿泊療養とする方針を発表しました。

しかし、中等症Ⅱ（血中酸素飽和度93%以下、呼吸不全あり）でも酸素投与が必要であり、自宅療養には大いに不安があります。重症化すれば自ら救急車を呼んだり、保健所に連絡したりすることが困難になり、自宅でそのまま亡くなってしまう危険性もあります。

データ上は入院病床に空きがありますが、現場の医師からはひっ迫した状況が伝えられています。感染者数の増加と比較して入院者数の増加割合が少ない状況からも、実際には病床の空きがほとんどない状況がうかがえます。「中等症でも自宅療養」の方針が撤回されたとしても、受け入れる医療機関に病床の空きがなければ、入院することはできません。

新型コロナに対応する病床や医師・看護師を増やす取組を継続しつつ（←これ自体極めて困難だと思いますが）、宿泊療養や自宅療養でも安全に過ごせるよう、対策を講じる必要があります。

埼玉県の宿泊療養・自宅療養対策は？

埼玉県では現在、ホテルルートイン鴻巣など11施設で宿泊療養者を受入れています。宿泊施設には看護師が滞在して健康観察を行い、必要に応じて医師が電話診療を行います。8月7日現在、受入可能室数は1,535室で、そのうち603室(39.3%)を使用しています。

自宅療養者には、症状の悪化をすぐに発見できるように血中酸素飽和度を測定するパルスオキシメーター（写真）を配布しているほか、無料の配食サービスを実施しているとのこと。また、保健所の業務を分散するため、地域の医療機関に協力を依頼したり、宿泊・自宅療養者支援センターを設置したりして、自宅療養者の健康観察を実施しています。

県ではこのように体制を整えているところですが、陽性者への対応は全て県が実施しているため、本当に必要な支援が行き届いているのか、市として十分に把握できていないのが現状です。「救える命を必ず救う」ために、県と市が連携・協力して対応するよう、関係各所に働きかけてまいります。



◎ 期待の治療薬!? 北里大学・大村智博士が開発した抗寄生虫薬 **イベルメクチン**

「イベルメクチン」は、2015年にノーベル生理学・医学賞を授賞した北里大学の**大村智博士**が、1981年にアメリカの製薬会社とともに開発した抗寄生虫薬です。

イベルメクチンは、アメリカやイギリスの医師や研究者の治験の結果を元に、アフリカやインドなどで新型コロナ患者に投与されており、特にインドでは、感染爆発時にイベルメクチンを投与した州で感染者が大きく減少したという評価もありますが、世界的にその評価が分かれています。

厚生労働省の『新型コロナウイルス感染症診療の手引き（第2版）』では、「新型コロナへの適応外使用を認める」とされ、日本でも自費診療で処方している医療機関があるものの、最新の手引きからは記載が削除されています。WHO（世界保健機構）も「証拠が非常に不確実」で治験以外には「いかなる患者にも使用すべきでない」との声明を3月に発表しています。このような状況から、新型コロナ治療薬としてのイベルメクチンの投与については、賛成派と反対派で激しい論争になっています。

イベルメクチンが新型コロナの治療薬として正式に認められるためには、大規模な治験の結果が必要です。大村博士もサンデー毎日の取材に対し「何より重要なのは、科学的根拠やデータを提示すること」と述べています。

北里大学は、昨年9月に医師主導で治験を開始することを発表しましたが、被験者や資金の不足に陥り、今年7月に改めて医薬品メーカーの「興和」と治験を実施すると発表しました。臨床試験を年内に終え、厚労省に承認申請を行い、順調ならば1年ほどで認可が下りるようです。

治験の結果、高い効果があると証明されれば、イベルメクチンと大村博士が改めて高く評価されることになるでしょう。良い結果を期待しています。

（写真）文化センター前に建てられた大村智博士の記念碑



発行者 桜井 卓(会派:市民の力)

住所 北本市高尾1-166-6

電話 090-9389-3572

2019年5月から北本市議会議員(1期目)

★新型コロナに関する情報や北本市政に関する情報を、Twitterや公式ホームページでお知らせしています。

Twitter : 桜井すぐる (@sakuraikitamoto)

ホームページ: 「桜井すぐる」で検索してください。

